



題字は達増知事

令和8年5月号

発行所

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 滝沢市砂辺389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

URL: <http://iwate.lin.gr.jp>

E-Mail: info@iwate.lin.gr.jp

印刷 小松総合印刷



若者よ「本当のプロになれ！」

岩手県農業会議

会長 杉原永康

岩手県の畜産は、本県の農業産出額の約6割を占め、まさに岩手県の農業を背負っている産業と言えると思います。しかし、昨年度策定した地域計画では、県北、沿岸地域を中心に、いわゆる白地農地が過半の市町村が多く、担い手がいない地域や耕作条件の悪い中山間地では担い手への農地の集積や集約化が難しいのが実情です。一方で、収益性を確保するためには、コスト管理(経営分析)が必要なことから、分析を十分に行ったうえで、各経営体にあった適正な規模にすることが求められています。また、開拓により新しい地域を築いてきた方々からすると、2代目3代目の時代となり、地域のコミュニティをいかに確保していくかが発展のカギを握ってきているものと考えられます。企業化を進めていくとどうしても突き当たる問題だと思います。現在、米農家も法人化がどんどん進んでおりますが、酪農と同様に地域のコミュニティをどう維持していくのか、効率性だけでは考えられない課題があります。

一方、現在の日本の食料自給率は、カロリーベースで全体の4割程度です。これでは、なにか予期せぬ事態が勃発すれば食料が不足してしまう状況にあります。つい150年前までは、頻発する冷害の度に食料が確保できなくなり、餓死した人々が大量に出ていた地域もありました。畜産の世界においても、配合飼料や農業資材を外国に依存し

ているため、貿易が止まったら大変なことになってしまいます。現在も、石油の輸入が止まりそうになっただけで、世界が翻弄されています。

私も50年近く農業や畜産の世界に生きてきましたが、最近思うことは、農業や畜産は、常に技術開発、品種・家畜改良をしながら生産性の向上を図ってきた分野だということです。そこに気候だとか感染症だとか予想もできない危険要因が重なり合うため、常に危機管理をしていかななくてはならない難しい分野です。このため、このような現場の危機に対応できるプロ集団を作っていかなければなりません。販売対策にしても、技術開発と一体となって初めて成果がでるものなのに、技術開発が中途半端なため、本当の商品展開になっていないと感じることがあります。

これからの若い人は、思うことがあれば、どんどん叫んでいってほしいです。声をあげていかないと、素晴らしい発想やアイデアが埋没するだけです。負けないでください。

それから、前述のとおり「技術」が大切だといってきましたが、頑張っ「本当のプロ」になっていただきたいと思います。先輩方の中には「本当のプロ」が多くいます。「筋金入りのプロ」です。私もそういう先輩方から多くのことを学びました。若い方々もそうになってください。そうすれば、岩手の畜産は更に発展するものと確信しています。

畜産春秋

もくじ CONTENTS

畜産春秋.....	1	畜産の研究(160).....	7
令和7年度臨時総会の開催.....	2	乳用牛群検定情報(23).....	9
岩手県農林水産部畜産課令和8年度業務方針.....	3	畜産技術情報(114).....	10
令和7年度岩手県獣医畜産業績発表会(岩手県知事賞獣医部門).....	4	第70回岩手県畜産共進会の開催について.....	11
地方競馬ミルクウィーク2026開催.....	5	新職員紹介コーナー.....	12
春の風物詩「第80回重種馬市場」.....	6	子牛市場及び家畜市場成績.....	12
家畜の保健衛生(165).....	6		

【「岩手の畜産」は、バックナンバーも含め協会のホームページでご覧いただけます。】

令和7年度臨時総会の開催

令和8年3月16日に一般社団法人岩手県畜産協会の令和7年度臨時総会が開催され、令和8年度事業計画及び収支予算等が報告されました。

伊藤会長挨拶要旨

今年の2月21日に、本県で今季初めての高病原性鳥インフルエンザが金ケ崎町内の養鶏場で発生した。採卵鶏約56万羽の殺処分等、防疫作業に当たっては、金ケ崎町及び北上市の職員や県建設業協会のほか、多くの民間団体の関係者の協力を得て、万全な体制を確保しながら作業を進められたものと、あらためて、作業に従事された県職員をはじめ、関係者全ての皆様方に敬意を表する。

近年における畜産の経営環境については、経営を左右する飼料価格の高止まりが長年続いており、少しでも輸入飼料から脱却することが求められている。

このような中、当協会においては、国の総合的なTPP等関連政策大綱に基づく畜産クラスター機械導入事業の窓口業務を担い、平成28年度から令和6年度までの9年間で、コントラクターやTMRセンターなどの外部支援組織等を含め、県内合計で延べ341の経営体等に対し、ロールベラーなど飼料生産のための機械599台を導入し、自給飼料の生産拡大につなげている。

農林水産省においては、収益性等の向上に向けた生産基盤の維持・強化対策として、引き続き、畜産クラスター事業等の取組を強化することとしている。こうした事業や制度等を最大限に活用するとともに、それぞれの経営においても改革・改善を進め、本県の畜産を守り抜いていかなければならないと思うところである。

改めて、本県の畜産振興における当協会の位置づけを認識するとともに、しっかりとその役割を果たしていかなければと、その重責を感じている。



会員・準会員の皆様には、これまで以上のご支援・ご協力をお願いする。

令和8年度事業計画書(概要)

基本方針

国内屈指の地位を誇る本県の畜産は、県農業産出額の6割強を占めるとともに、裾野の広い関連産業を抱え、地域経済の活性化に大きく寄与している。

一方、家畜飼養者の高齢化等により、畜産経営体等は減少している。

この傾向を助長している要因の一つに、輸入飼料に依存している「エサ代の高騰」による経営の悪化等が挙げられ、少しでも輸入飼料から脱却することが求められている。

このため、本県においては、国の総合的なTPP等関連政策大綱に基づく畜産クラスター事業をはじめとする各種事業を積極的に活用した生産基盤の維持・強化に向けた取組等が進められ、特に当協会が窓口業務を担っている機械導入事業においては、平成28年度から令和6年度までの9年間で、コントラクターやTMRセンターなどの外部支援組織等を含め、県内合計で延べ341の経営体等に対し、ロールベラーなど飼料生産のための機械599台を導入し、飼料の生産拡大につなげている。

このように、畜産経営の体質強化を推進している中で、令和4年以降、和子牛価格が下落していたものの、令和7年から回復傾向に転じており、これは、令和6年から繁殖雌牛頭数が減少しているなどの要因によるもので、生産基盤の弱体化が懸念されている。また、令和3年以降、一人当たりの牛肉の消費量は物価高騰等に伴う消費者の生活防衛意識の高まり等で減少傾向にあり、国産牛肉の需要拡大に向けた対応が課題となっている。

そうした中、農林水産省においては、2025年度補正予算を決定し、「畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進」を柱として、その中心は、収益性向上などにつながる、生産基盤の維持・強化に向けた畜産クラスター事業や、増体、肉質に優れた若い繁殖雌牛への牛群の転換を支援するための優良繁殖雌牛更新加速化事業であり、いずれも当協会が担うものである。

くずまき高原牧場
 酪農教育ファーム認証牧場(第031002号)
牧場体験承っております
 アイスクリーム作り体験、牛・羊の世話、
 乳搾り体験、羊の毛刈り体験、しいたけ採取体験



乳製品の宅配承っております



かわいい動物たちとふれあえます

(ご予約・お問い合わせ先)
くずまき交流館 プラトール
 TEL. 0195-66-0555
<https://kuzumaki.jp>

こうしたことから、令和8年度は、当協会の各種事業の効果的かつ的確な実施に不可欠な関係機関・団体との連携を一層強固にし、下記重点事項を柱に掲げ、当協会の総力を挙げて本県畜産の確立・経営体質強化に寄与するものとする。

重点事項

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 5 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び適正利用の推進
- 6 登録制度と肉用牛ゲノミック評価を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- 7 第13回全国和牛能力共進会出品対策の推進

I 実施事業

- (1) 継続事業1 (経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業 108,692千円)
畜産振興を目的として、経営の改善指導・生産技術の向上指導、経営体の育成啓発、家畜改良の推進指導、家畜衛生の向上指導及び畜産物の安全確保指導、調査並びに情報収集及び提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に

係る事業を実施する。

- (2) 継続事業2 (肉用牛肥育経営安定対策事業 481,669千円)
肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付する。
- (3) 継続事業3 (家畜自衛防疫事業 163,352千円)
家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進する。

II その他事業

- (1) 家畜人工授精用精液流通調整事業 (48,927千円)
本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、家畜人工授精用凍結精液及び受精卵等の供給を円滑かつ安定的に行う。
- (2) 家畜登録事業 (52,920千円)
本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進するほか、肉用繁殖牛群の改良等に資するため、肉用牛ゲノミック評価窓口業務を行う。
- (3) 研修及び畜産理解促進事業 (4,417千円)
関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と業務遂行能力の向上を図るほか、競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進するとともに、地方競馬の活性化を支援する。

**岩手県農林水産部畜産課
令和8年度業務方針**

I 基本方針

新たな「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」に基づき、持続性の高い畜産経営の確立に向けた取組を推進します。

岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画(令和8年3月策定)

○ 生乳生産量

令和5年度 (現状値)	令和12年度 (目標値)
197,827トン	195,000トン


○ 肉用牛頭数

令和5年度 (現状値)	令和12年度 (目標値)
87,900頭	87,900頭

II 重点的取組

1 畜産経営体の体質強化

- (1) 生産基盤の強化
 - ・畜産経営体の規模拡大に向け、草地、畜舎等の整備や生産管理用機械の導入の促進
 - ・優良繁殖雌牛の導入、増体や肉質に優れた若い繁殖雌牛への更新の支援
- (2) 生産性の向上
 - ・乳牛1頭当たりの乳量向上に向け、細霧システムの導入や飼養管理改善等による暑熱対策の技術実証
 - ・肉用牛の分娩間隔短縮に向け、ICT機器とクラウドサービス活用による生産者・畜産関係技術者が一体となった繁殖管理モデルの

	<p>母豚2,000頭の一貫経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JGAP認証農場 ・ 良質豚ぶん堆肥の供給 ・ 徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給 	<p>「みなみよ〜とん株式会社」 岩手町大字川口36-242-3 TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373 ※精肉のご用命は岩手畜流会(食肉専門店)へ</p>
---	--	--

実証

・子牛の発育向上や事故率低減、乳牛の乳質向上などに向け、サポートチームによる技術指導

(3) 県産飼料の生産・利用拡大

・県・団体による共同宣言「いわて飼料生産・利用行動指針」に基づき、草地や飼料畑の造成など、飼料基盤を積極的に活用した県産飼料の生産・利用拡大の推進

・地域における草地更新や飼料用とうもろこしへの転換などの飼料増産の取組を定める「飼料生産計画」の策定と実践の推進

・AI・ロボットを活用した放牧管理や飼料生産作業の省人化の技術実証

(4) 外部支援組織の育成・強化

・コントラクター組織の体質強化に向け、繁忙期の人材融通モデルの実証、異業種との連携による周年雇用モデルの確立

・酪農ヘルパー組合やコントラクター組織等の個別課題解決に向け、専門家のスポット派遣

2 県産肉牛の評価向上

・牛肉の「おいしさ」の新しい評価基準の策

定に向け、AIによる枝肉断面画像解析や遺伝子検査の実施

・ゲノム解析や受精卵移植技術の活用などによる種雄牛造成、「菊美翔平」産子のPR継続による県有種雄牛の利用推進

・令和9年に開催される全国和牛能力共進会での上位入賞に向け、県・団体からなる「出品対策支援チーム」による候補牛の育成指導、農業高校生・農業大学生など次世代の担い手への技術継承のための研修会開催

3 産業動物の獣医療提供体制の整備

・産業動物診療獣医師の確保・育成、安定的な獣医療提供体制の整備に向け、県・団体・岩手大学との連携体制の整備、遠隔診療の技術実証

4 家畜伝染病の予防及びまん延防止対策の強化

・高病原性鳥インフルエンザの発生防止に向け、鶏舎入気口へのフィルター設置支援やドローンを活用した鶏舎点検など、平時からの対策の強化

・豚熱の発生防止に向け、農場飼養豚へのワクチン接種や野生いのししへの経口ワクチン散布を推進

令和7年度岩手県獣医畜産業績発表会

岩手県知事賞（獣医部門）

牛舎環境材料による牛鼻腔内の呼吸器病関連病原体推定方法の設計と野外応用

岩手県中央家畜保健衛生所 病性鑑定課 五嶋 祐介

【背景及び目的】

牛群における定期的な牛呼吸器病（BRD）関連病原体の把握は、早期発見・予防の一助となります。検査には鼻腔スワブ（NS）を用いますが、牛群における侵入状況把握を目的とした調査においては、労力の軽減及び牛へのストレス軽減のため、採取容易、牛に対して非侵襲、可能であれば低コストの牛舎環境材料等が望まれます。そこで、環境材料の候補として、①食品施設の衛生管理指標である寒天培地による落下細菌数測定を参考にした、開放シャーレによる落下塵埃収集法②牛の飲水時に鼻が水槽内に浸かることを着眼点とした、

水槽材料による病原体検出法を設計しました。両法による検体とNSの比較検証の実施により、牛舎環境材料による牛鼻腔内のBRD関連病原体の推定方法を確立、さらに野外応用について検討したので、その概要を報告します。

【方法】

- 1 空気材料（AM）の収集法：対象牛近傍の通路又は牛床に、PBS2mlを展開したシャーレを30分静置後、シャーレ全体にPBSが行き渡るように傾け回収。
- 2 水槽スワブ（WS）の採材方法：水槽内壁を綿棒で良く擦り、2mlPBS入り遠沈管に回収。

動物の健康は人の健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品

MPアグロ株式会社

本社:北海道北広島市大曲工業団地6-2-13 盛岡支店:TEL 019(638)3291

カップ式の場合は1カップに綿棒1本、タンク式は大きさにより2～4本の綿棒を使用。

- 3 NS採取方法：柄が30cm以上の綿棒を用いて牛の咽頭壁まで挿入し、同一方向に10回転させ10カウント後に引き抜き、PBS2ml入り遠沈管に回収。
- 4 NSとの比較：令和6年11月～同7年7月、黒毛和種子牛を飼養する4農場（黒毛和種繁殖3、預託育成1）において延べ24回、NS：103検体、AM：59検体、WS：52検体を採取。核酸抽出（MagDEA Dx SV、PSS社）後、マルチプレックスRT-qPCRによりBRD関連病原体12種：BVDV、BCoV、BToV、BAdV7、BRSV、BPIV3、BIDV、BHV1、*Mycoplasma bovis* (Mb)、*Mannheimia haemolytica* (Mh)、*Pasteurella multocida* (Pm) 及び *Histophilus somni* (Hs) の各遺伝子の検索を実施し、それぞれの関連性を比較。
- 5 野外応用：預託育成2農場5牛舎において、全水槽のWSによるBRD関連病原体の浸潤状況把握調査を実施。

【成績】

NSとAM及びWSの比較の結果、NSに対するAMの病原体検出一致率は全病原体では55.1%、各病原体ではBToV、BAdV7:100%、BCoV:85.7%、Pm:77.1%、Mb:50%、BIDV、Mh:33.3%、Hs:28.6%、BPIV3:0%、BVDV、BRSV及びBHV1:検出無し。同様にWSの病原体検出一致率は、全病原体

では90.8%、各病原体ではBCoV、BToV、BAdV7、BPIV3、BIDV、Mb、Pm、Hs:100%、Mh:69.6%。BVDV、BRSV、BHV1:検出無し。野外応用の結果、1牛舎30～60分程度の採材で、BRD関連病原体の侵入状況を容易に把握可能であることを確認。

【考察】

AM及びWSは、採取簡便、牛に非侵襲性かつ低コストに採取できる材料であることが確認されました。AMの一致率は全体で5割を超えたものの、一部のウイルスや細菌においては3割程度であり、検出力に課題が見られました。理由として、外気が入り込んでいた場所では検出されにくい傾向が確認され、牛舎内の風や空気の流れの影響を受ける可能性が示唆されました。農場毎に採取場所を事前に検討することで、検出率を向上できる可能性はあります。一方、WSの一致率は非常に高く、水槽を利用している牛の鼻腔内BRD関連病原体の保有状況を高率に反映することが示唆されました。複数の水槽を採取することにより、牛舎内のBRD関連病原体の侵入状況を高い精度で把握することが可能と言えます。今回の結果から、一部農場においてWSをBRD関連病原体の侵入状況把握調査に活用したところ、NS採取による把握と比較して、非常に省力的に把握が行えることが改めて確認され、牛舎内のBRD関連病原体推定方法として極めて有用であることが証明されました。本法の活用により、BRDによる畜産農家の損失を防ぎ、本県の畜産の発展に大きく貢献したいと思っております。

地方競馬ミルクウィーク2026開催!!

令和8年3月15日(日)、東北6県の馬事畜産振興協議会(事務局:各県畜産協会)が主体となり、水沢競馬場を会場に来場者への牛乳・ヨーグルトの配布及び冠レースへの副賞提供が行われました。これは、畜産振興の観点から地方競馬が一体となった取組として、国内の生乳消費が落ち込む年度末の期間に、牛乳・乳製品の消費拡大を図ることを目的に、地方競馬ミルクウィーク2026として実施されたものです。

来場者には、午前と午後の各1回、各県の牛乳・



ヨーグルト(各県200個)がプレゼントされました。

また、冠レースへの副賞提供は、15日(日)の第1レースから第5レースに開催された「がんばれ!酪農応援賞」として、青森県、岩手県、宮城

農畜産物の「安心・安全」を未来につなぐ

小田島商事株式会社

本社 〒025-0311 花巻市卸町66番地 TEL 0198-26-4151

<動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材>

花巻(営) 0198-26-4700 八戸(営) 0178-34-2284

大船渡(出) 0192-26-4740 プレミックス工場 0198-26-4726

横手・青森・古川・山形・酒田・福島・旭川・札幌・帯広・釧路

県、山形県、福島県の馬事畜産振興協議会から、優勝馬の馬主、騎手、調教師、厩務員に対し、それぞれ乳製品の詰め合わせが贈呈されました。

当日を含め地方競馬の売上げの一部は、畜産農家の経営改善、後継者の育成、家畜の感染症予防等、畜産振興等に活用されています。

春の風物詩「第80回重種馬市場」



4月11日(土)、北東北に春の訪れを告げる第80回軽米重種馬市場・春市場(九戸畜産農業協同組合主催)が、軽米家畜市場で開催されました。

軽米家畜市場は東北で唯一、重種馬の売買が行われる市場で、当日は、県内をはじめ北海道や福島県等の県外から、日本輓系種等の重種馬やポニーなど計45頭が上場し、値決めは昔ながらの「手競り」方式で行われ、県内外から集まった多くの購買者の活気ある掛け声のもと競りが進み、最高

値は日本輓系種の雌の一歳馬が132万円(税抜)で取引されました。

当日は、春の好天に恵まれ、一般の方の見学者も多く訪れ、北岩手の春の風物詩を楽しんでいました。

家畜の保健衛生 (165)

岩手県におけるヨーネ病発生状況及び防疫対策推進のための要点

ヨーネ病(JD)は長い潜伏期間と慢性の頑固な下痢を特徴とする家畜伝染病であり、患畜は家畜伝染病予防法(以下「法」という。)に基づき、殺処分されます。令和7年は全国で1,109頭、本県では8戸13頭の患畜が摘発されています。

本県におけるJD防疫対策のための主な検査は次のとおりです。①県外導入牛の導入時検査②県内農場において繁殖又は搾乳に供する12か月齢以上の牛を対象とした法5条に基づく定期検査(5年に1度)③発生農場では、清浄化のため同居牛を発生後1年間は3か月に1回、それ以降は6か月に1回の検査を1年半の間行い(計8回)、全ての検査で陰性を確認し清浄化と判断されます。

今後のJD防疫対策の要点を整理するため、本県の診断法にリアルタイムPCR検査が採用された平成25年から令和7年度までの県外導入牛検査及び発生農場における同居牛検査成績について調査しました。

【県外導入牛の感染状況】

13年間に11,882頭(乳8,642頭、肉3,240頭)を検

査し、患畜20頭(乳18頭、肉2頭)及び定性陽性牛51頭(乳45頭、肉6頭)が摘発されました。摘発された患畜・定性陽性牛計71頭のうち、68頭が北海道からの導入でした。

【発生農場の検査状況】

法5条検査、下痢の病性鑑定又は移動のための自主検査(以下「初発時検査」という。)において17戸(乳3戸、肉14戸)27頭の患畜が摘発され、その後の同居牛検査では、患畜76頭及び定性陽性牛275頭が摘発されました(表1)。初発時検査及び1回目の同居牛検査において摘発された患畜63頭のうち26頭(乳13頭、肉13頭)が県外導入牛でした。同居牛検査における患畜の摘発頭数は、検査回数が増えるほど漸減する傾向にありましたが、

表1 発生農場の患畜・定性陽性牛摘発頭数

農場	用途	初発時検査		同居牛検査		
		時期	検査	患畜頭数	患畜頭数	定性陽性牛頭数
A	肉	H25.9	法5条	1	0	0
B	肉	H26.7	法5条	1	0	0
C	乳	H26.11	法5条	1	1	9
D	肉	H28.11	法5条	1	0	9
E	肉	H29.1	法5条	6	30	101
F	肉	H29.6	法5条	2	2	7
G	肉	H29.6	病鑑	1	7	48
H	肉	H30.4	自主	1	0	2
I	肉	H30.10	病鑑	1	3	8
J	乳	R1.9	法5条	1	7	9
K	肉	R3.12	法5条	1	0	2
L	肉	R4.4	病鑑	1	0	3
M	肉	R4.9	法5条	2	6	19
N	肉	R4.12	法5条	3	7	37
O	肉	R5.1	法5条	1	5	13
H	肉	R6.10	自主	2	3	8
P	乳	R7.5	法5条	1	5	0
17戸	肉14戸 乳3戸			27	76	275

※H牧場は2回発生

- 共進会用 馬・乳牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・ ●牛馬手入用毛ブラシ
- 肉牛用牛衣
- 普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・輓馬具一式・畜犬具
- 電気工事用革ケース・カバン・ズック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
- せんでい鉄ケース他造園工具ケース類 ●その他特別御注文のカバン等承って居ります

創業110年品質第一手造りの店

岩手県指定店 **塩釜馬具店**

盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL019-622-5393 (労働福祉会館隣)

7回連続の陰性確認後、8回目の検査で患畜が摘発された事例も認められました。

清浄化した農場11戸(乳1戸、肉10戸)における発生から清浄化までの期間(対策期間)は、平均33か月でした。対策期間が大きく延びた5戸は、大規模肉用牛農場(E、F農場)及び定性陽性牛の全頭とう汰を行っていない農場(G、N、O農場)でした(表2)。

表2 発生農場のJDの摘発状況と対策期間

農場	用途	飼養頭数	1回目検査の患畜頭数	定性陽性牛		*対策期間(月)
				頭数	とう汰数(%)	
E	肉	3,304	10	101	101(100%)	131
O	肉	65	1	9	0(0%)	65
F	肉	309	3	7	7(100%)	55
N	肉	68	6	37	26(70%)	54
G	肉	47	5	48	31(65%)	43
H	肉	25	1	2	2(100%)	34
P	乳	542	5	0	0(-)	33
A	肉	6	1	0	0(-)	31
D	肉	74	1	9	9(100%)	31
K	肉	11	1	2	2(100%)	31
H	肉	31	5	8	8(100%)	30
B	肉	16	1	0	0(-)	30
C	乳	196	2	9	9(100%)	30
L	肉	7	1	3	3(100%)	30
M	肉	73	8	19	19(100%)	30
I	肉	13	4	8	8(100%)	19

■ 対策中農場 □ 清浄化農場

*対策中農場は最短で清浄化した場合の試算

発生農場17戸の中には、一度は清浄化したものの、再発生した農場が3戸ありました(表3)。再発生時の患畜には、前回の対策期間中に同農場で出生もしくは飼養されていた牛または未検査のまま県外から導入された牛が含まれていました。

【考察】

JD発生農場の初発時検査及び初回同居牛検査の結果から、県外導入牛は本病の主要な侵入リスクであり、導入牛検査の徹底によるヨーネ菌の持

表3 清浄化後の患畜再摘発農場

農場	清浄化-再発の期間	検査	患畜		
			年齢	産地	再発にかかわる疫学
N	7年	法5条	7歳	自家産	前回対策期間に出生
			5歳	自家産	
			6歳	自家産	
			5歳	自家産	
			12歳	沖縄県	前回対策期間に飼養
H	3年	同居牛検査	12歳	雫石町	前回対策期間に飼養
			9歳	自家産	前回対策期間に飼養
			4歳	自家産	前回対策期間に出生
			1か月	自家産	
			10歳	自家産	前回対策期間に飼養
M	11年	法5条	9歳	鹿児島県	
			3歳	自家産	
			3歳	自家産	
			11歳	宮古市	導入牛検査未受検
			7歳	自家産	
		同居牛検査	4歳	自家産	
			2歳	自家産	
			11歳	宮城県	導入牛検査未受検
			11歳	鹿児島県	導入牛検査未受検

込防止が不可欠と考えられました。

本県の発生農場における清浄化までの期間(33.1か月)は、国の本病防疫対策要領による対策期間(36か月)と比較すると良好な成績といえます。一方、肉用牛の大規模農場及び定性陽性牛の一部をとう汰せずに飼養を継続した農場において、対策期間の長期化が認められました。大規模農場では、群飼や牛の移動による感染拡大と、本病の特徴である間欠排菌により感染牛の摘発時期が分散するため、対策期間が長期化していると考えられました。さらに、早期の清浄化達成のためには定性陽性牛のとう汰が重要であることが再確認されました。

また、清浄化後に再発生した農場もあることから、法5条検査等による監視の継続が重要と思われました。

畜産の研究 (160)

~乳用育成牛の放牧における日増体量を確保するために~

ルーメン深度の活用を!

岩手県では、県内16か所の公共牧場で、年間約2,200頭(令和4年度公共牧野実態調査)の乳用育成牛が放牧されています。しかし、牧野看視人の不足や高齢化が進んでおり、牛一頭一頭の管理が難しくなっていることから、採食量の不足等により、牛の発育にばらつきが生じることが課題となっています。

そこで、放牧中の育成牛の採食量を簡易にモニ

タリングする手法として、左けん部の陥没具合(以下「ルーメン深度」という。)に着目し、そのルーメン深度と、乾物摂取量、日増体量との関係を調査しました。

【方法】

- 1 ルーメン深度の測定方法
ルーメン深度は、図1により測定を行いました。
- 2 空腹時に乾草または生草を飽食給与した場合のルーメンフィルスコア(RFS)とルーメン深度の推移

7~8か月齢のホルスタイン育成牛4頭を繋留飼養し、試験開始前日の17:00から絶食状態とし、翌朝8:30にRFSとルーメン深度を測定(空腹時)した後、乾草または生草を飽食給与



一般社団法人 家畜改良事業団 盛岡事業所

家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵(IVF)、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器(MVE社製)を取り扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡事業所までお願い致します。

〒028-4134 岩手県盛岡市下田字柴沢301-5
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334

しました。

その後、牛が満腹となり採食をやめて休息に入る時点（満腹時）でRFSとルーメン深度を測定したのち、再度、絶食とし、1時間置きにRFS、ルーメン深度を測定しました。

この試験を3日間継続し、4頭×3日間、延べ12頭について調査しました。

3 放牧牛における乾物摂取量、日増体量、ルーメン深度の関係

春季 (R7.5/27~6/2、放牧地面積2,115㎡)、秋季 (R7.9/22~10/2、放牧地面積1,470㎡) に、8~12か月齢の乳用育成牛各4頭を放牧し、乾物摂取量、日増体量とRFS、ルーメン深度の関係を調査しました。

【結果】

1 空腹時に乾草または生草を飽食給与した場合のRFS及びルーメン深度の推移

(1) RFSの推移

RFSは、採食前（空腹時）は2程度でしたが、採食終了時には、4程度に増加しました。その後、再度の絶食に伴い漸減し、採食終了から4~5時間後には、再び2程度に減少しました。このことから、空腹の目安は2程度、満腹の目安は4程度と推察されました（図2）。

(2) ルーメン深度の推移

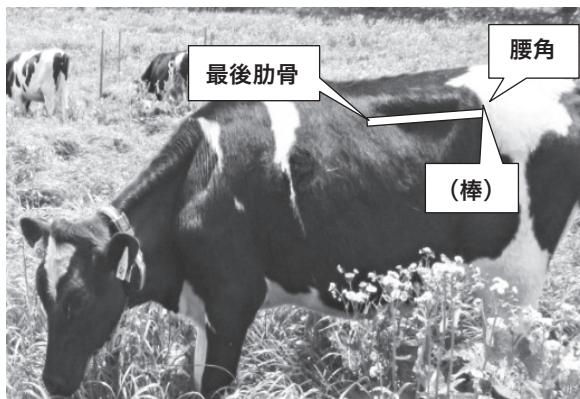
ルーメン深度は、採食前（空腹時）は5cm程度でしたが、採食終了時には3cm程度に減少しました。その後、再度の絶食に伴い漸増し、採食終了から4~5時間後には4cm程度に増加しました。このことから、空腹の目安は5cm程度、満腹の目安は3cm程度と推察されました（図2）。

2 放牧牛における乾物摂取量、日増体量、ルーメン深度の関係

春季放牧試験では、放

牧後期には乾物摂取量の低下とともに日増体量はマイナスに転じ、ルーメン深度は、後期終了時には、5.6cmに増加しました。

秋季放牧試験では、全期を通じて、乾物摂取量は不足し、日増体量はマイナスで推移しました。



【ルーメン深度の測定方法】

- ① 牛の左側面に立ち、最後肋骨から腰角頂点まで横突起と水平に、平らな棒をあてる。
- ② 棒を横突起に水平な状態を保ちつつ、一番深い位置まで下にずらし、深さを計測。

図1 ルーメン深度の測定方法

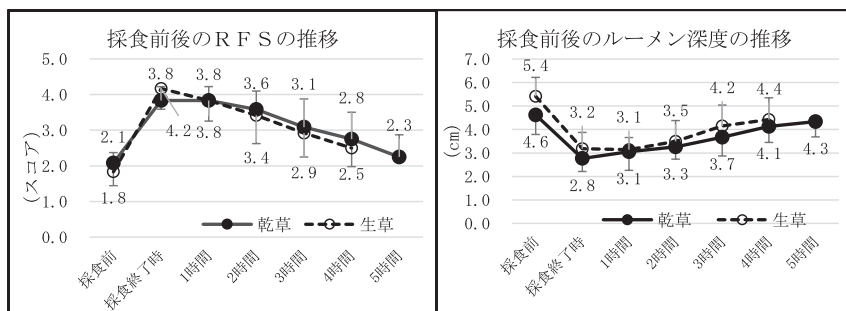


図2 採食（乾草、生草）前後のRFS、ルーメン深度の推移

表1 放牧牛における乾物摂取量、RFS、ルーメン深度の関係

調査項目	単位	春季放牧		秋季放牧	
		前期	後期	前期	後期
		5/27 ~ 6/2	6/3 ~ 6/6	9/22~9/29	9/30~10/2
乾物摂取量割合	(%)	100.0	64.7	78.7	56.0
日増体量	(kg/日)	1.7±0.8	-1.1±1.6	-1.3±0.4	-2.3±4.8
RFS		3.0 → 3.0	3.3 → 2.3	3.0 → 2.5	3.0 → 2.3
ルーメン深度	(cm)	4.0 → 4.3	3.8 → 5.6	4.0 → 5.3	5.0 → 5.9

※乾物摂取量割合：乾物摂取量は、内外差法により期間中の1頭あたりの推定摂取量を算出し、日増体量が確保できた春季放牧前期を100とした場合の摂取量割合(%)で示した。

※日増体量は、期間中の4頭の平均値±標準偏差

※RFS、ルーメン深度は、期間開始時→期間終了時の4頭の平均値を記載。

○草地造成地用に
 ファソ リンサ 刈
 草地484号 14-28-14

○苦土の補給に
 ファソ リンサ 刈 外
 草地211号 20-10-10-5

○カリ過剰対策に
 ファソ リンサ 刈 外
 草地NP260号 12-6-0-9

草地NP420号 24-12-0-7

豊かな大地を育む

B.B. 肥料

くみあい肥料株式会社

〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割146番地 TEL0198-26-3313 FAX0198-26-3316

ルーメン深度は、前期終了時には5.3cm、後期終了時には5.9cmに増加しました(表1)。

これらのことから、ルーメン深度は、乾物摂取量を推定する指標となり、RFSに比較し客観的に評価できることがわかりました。5cm以

上では、日増体量の低下が懸念されるため、放牧地においては、草量が十分かを確認し転牧の指標として御活用いただければと思います。

今後、ルーメン深度の簡易な測定方法も検討していくこととしています。

乳用牛群検定情報 (23)

一般社団法人家畜改良事業団

～搾乳方法の点検～

これまでは体細胞数が高い検定成績の事例などを紹介してきました。今回は、一歩進んで、体細胞数が高い農家の、搾乳方法を再確認するチェックポイントを紹介します。牛群検定の時に検定員と一緒にチェックすると良いでしょう。

乳房炎の原因

乳房炎は、端的に言えば乳房炎の原因菌が乳頭口から侵入し感染することです。搾乳はディッピングなど乳頭口が直接関わるので、原因となることの多い作業です。他にもいろいろな原因があり得ますが、まずは搾乳方法のチェックポイントを紹介します。

搾乳手順のポイント

酪農家の皆さんは、もう耳にタコが出来るくらい搾乳方法の学習をされていると思いますが、基本を図1に簡単にまとめました。以下は図示した内容の補足説明になります。

ポイント1 準備

搾乳時にはゴム手袋が必須です。素手では、指紋や爪に乳房炎の原因菌が付着してしまいます。仮に素手を消毒しても爪の深いところは消毒液も届きません。また、爪で乳頭を傷つける事もあります。

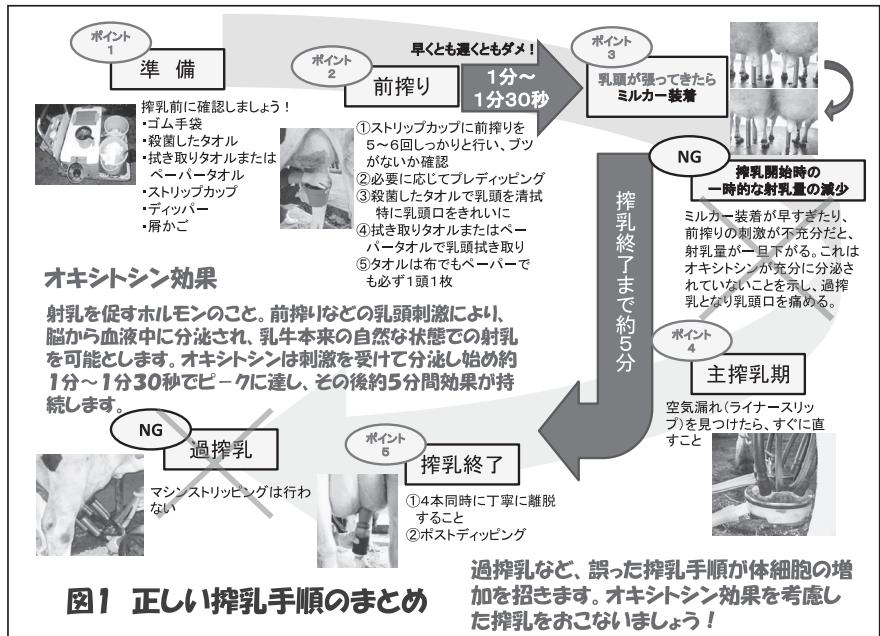


図1 正しい搾乳手順のまとめ

や、ライナーゴムの劣化等が原因となりますので、普段からメンテナンスを実施しましょう。メーカーや材質で異なりますが、一般的な目安となる日数は以下の計算式になります。

交換日数 = (1500回 × ミルカーユニット台数) ÷ (搾乳牛頭数 × 1日搾乳回数)

※ミルカー4台、50頭搾乳、1日2回搾乳であれば60日(2カ月)が交換目安です。

60日 = (1500 × 4) ÷ (50 × 2)

ポイント5 搾乳終了

オキシトシン効果は約5分間と言われております。自動離脱装置が付いていない場合の目安としてください。過搾乳やマシンストリップングを行ってはいけません。ポストディッピングは、浸漬式が良いと言われておりますが、薬液は定期的に交換してください。スプレー式では乳頭の裏側にもしっかりとスプレーします。

畜産技術情報(114)

暑熱対策の準備を始めましょう

盛岡市の桜の開花は昨年より9日早く、平年より11日早まりました。4月中旬からは最高気温が20℃前後の日が続くなど、昨年より気温が高く推移しています。

特に、牛舎内の「送風ファン」の清掃に加え、「水槽・飼槽」の清掃を行い、暑さに対する準備を始めましょう。

1 送風ファンの清掃効果

(1) 送風ファンのホコリを除去する

ファンには予想以上にホコリやクモの巣が付着しています。そのまま使用すると送風効率が下がるほか、電気代の増加にもつながります。

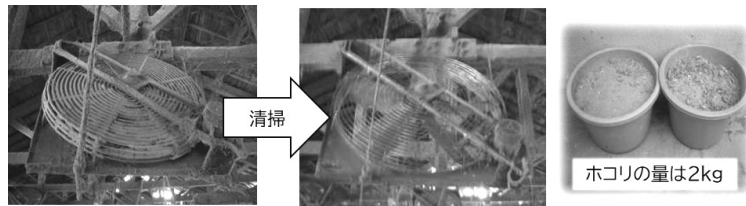


図1 換気扇清掃の効果(左:清掃前 右:清掃後・換気扇から2kgのホコリを除去)

本格的な暑さが到来する前に、コンプレッサーなどで、ファンに付着したホコリを除去します。

大型ファンを清掃したところ、除去したホコリの量が2kgもあったほか、風速が2倍になり電気代が2割低減した事例があります(図1)。

(2) 効果的な「送風」と「換気」

「送風」とは、牛舎内に気流を作ることです。また、牛体へ風を当てることにより体感温度を下げる効果が期待できます。風速2m/秒(ナイロン紐が横になびく程度)を目安に送風します(図2)。

牛の汗腺は頸部に多いので、頸部から肩に風が当たるようにファンを設置すると効果的です。

気温30℃でも、体感温度は、風速1m/秒で6℃、風速2m/秒で8℃低下させることができます。

「換気」とは、牛舎内の空気を入れ替えることです。牛舎内の温まった空気、アンモニア臭、ホコリや湿気を牛舎外に出し、新鮮な空気を入れる目的で換気扇を使用します。換気扇の台数を増やすと効率的に空気の入替えができるほか、生じた気流で体感温度を下げる効果も生じます。

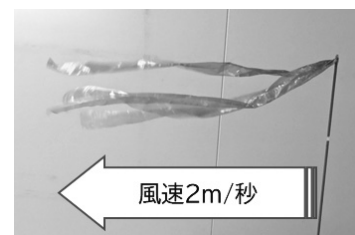


図2 風速2m/秒(ナイロン紐が横になびく程度)

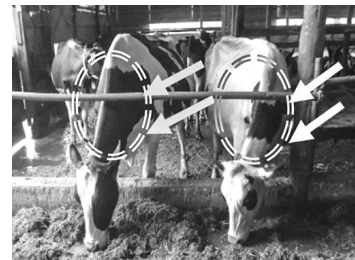


図3 牛の頸部や肩に風を当てる

2 水槽・飼槽の清掃効果

(1) 気温と飲水量

水は、「最も大量に摂取する重要な餌」です。また、気温の上昇と共に、飲水量が増えます。飲みたい時に飲みたいだけ水が飲めるように、水量の確保と水槽の清掃を励行します。

黒毛和種では、気温21℃以上の時、泌乳牛(体重408kg)で60ℓ以上、育成牛(体重180kg以上)で20ℓの水分が必要です(図4)。

乳量35kgの搾乳牛では、平均最低気温25℃の時、116ℓの水を飲みます(表1)。また、環境温度が32℃になると自由飲水量が29%増加します。

(2) 水槽・飼槽の清掃効果

水槽や飼槽には、唾液や餌のカスが溜まりやすく、放置するとカビやハエの発生を助長するので、毎日清掃しましょう(図5)。

給水バケツを毎日清掃した場合、2週間ごとの清掃に比べて、子牛の増体量が80g/日増加した報告があります(図6)。

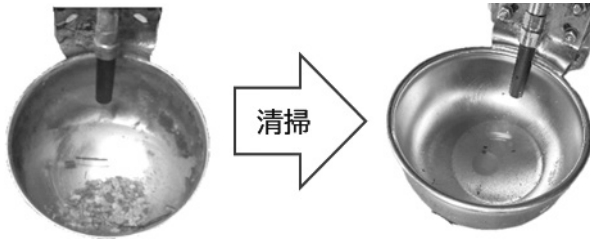


図5 ウォーターカップ
(左:清掃前 右:清掃後)

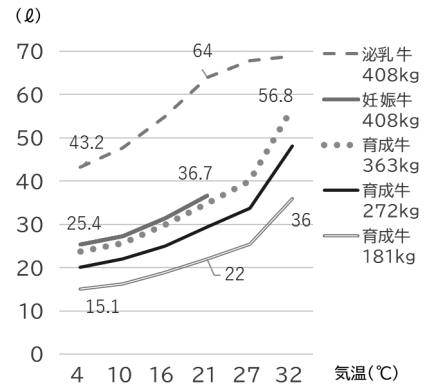


図4 肉用牛1日当たりの総水分摂取換算量

表1 泌乳牛の飲水量(乳量35kg/日、乳脂肪率3.8%) (ℓ)

平均最低気温(℃)	0	25
飲水量(ℓ)	86	116

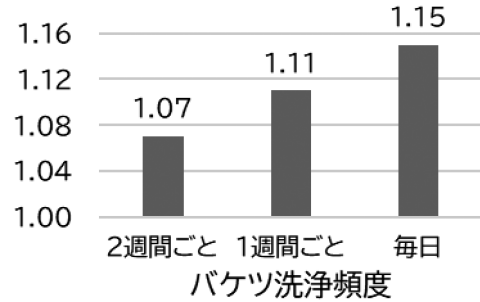


図6 給水バケツを洗う回数と日増体量の関係
(Wiedmeier 52006 乳牛雄哺育・育成:0~170日)

お知らせ

第70回岩手県畜産共進会の開催について

岩手県畜産共進会は、本県における家畜改良増殖の促進と畜産農家相互の研鑽を図ることを目的として開催するものです。

今年度の日程は次のとおりで、総合開会式は令和8年9月2日(水)9時から行われ、引き続

き黒毛和種の部の審査が開催される予定となっております。

出品家畜	開催月日	会場
黒毛和種	9月2日(水)	J A全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	9月3日(木)	同上
日本短角種	9月4日(金)	同上
馬	9月11日(金)	馬っこパーク・いわて
肉牛	11月7日(土)	株式会社いわちく

主催:(一社)岩手県畜産協会
後援:岩手県、J A全農いわてほか

岩手の畜産:令和8年3月号(第595号)の訂正

令和8年3月号(第595号)で掲載した畜産春秋の文面(※全国闘牛サミットの日程)に一部誤りがありましたので、次のとおり訂正させていただきます。 誤 6月14日(土)→正 6月14日(日)

新職員紹介コーナー

令和8年3月及び4月に採用となった職員を紹介します。
どうぞよろしくお願いいたします。



佐川 敬宜 (さがわ たかのり)

○所属：経営支援部
○座右の銘：初心忘れるべからず
○ひとこと：よろしくお願いいたします！



田中 伸幸 (たなか のぶゆき)

○所属：家畜改良部
○座右の銘：七転八起
○ひとこと：別業種からの転職のため0からのスタートとなりますが、1日でも早くお役に立てるよう精進して参る所存です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



去石 洸希 (さりいし こうき)

○所属：家畜改良部
○座右の銘：あきらめたらそこで試合終了だよ (SLAM DUNK 安西先生より)
○ひとこと：前職は警備職でしたので、畜産関係にはあまり触れてきていませんができるだけ早く業務を覚えていけるように頑張っていきます。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



角掛 杏美 (つのかけ あみ)

○所属：家畜改良部
○座右の銘：千里の道も一歩から
○ひとこと：新しいことをどんどん吸収して、自分の強みに変えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします！

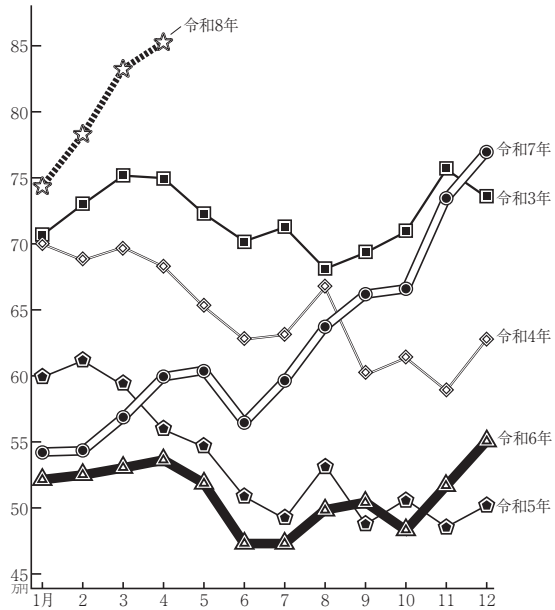
県内黒毛和種子牛市場成績

(全農岩手県本部)

市場区分	性別	令和8年3月			市場区分	令和8年4月		
		頭数	平均価格	平均体重		頭数	平均価格	平均体重
県南初日 胆江・気仙	雌	91	749,124	295	県南 胆江・気仙 磐井 (1日開催)	198	771,606	300
	雄							
	去勢	114	866,318	337		250	923,899	336
	計	205	814,295	319		448	856,591	320
*県南2日目 磐井	雌	98	756,418	300				
	雄							
	去勢	108	869,845	329				
	計	206	815,885	315				
中央初日 滝沢・雫石 八幡平・玉山 岩手・葛巻	雌	117	766,766	280	中央初日 宮古・北部 奥中山・久慈	152	785,834	292
	雄							
	去勢	204	875,433	310		161	918,261	316
	計	321	835,825	299		313	853,951	304
中央2日目 紫波・盛岡 花巻・北上 遠野	雌	101	772,559	292	中央2日目 滝沢・雫石 八幡平・玉山 岩手・葛巻	154	779,186	284
	雄							
	去勢	141	893,114	325		198	914,950	313
	計	242	842,800	311		352	855,553	300
中央3日目 宮古・北部 奥中山・久慈	雌	134	761,011	291	中央3日目 紫波・盛岡 花巻・北上 遠野	119	757,715	290
	雄							
	去勢	159	916,528	322		149	906,016	327
	計	293	845,404	308		268	840,166	311
合計	雌	541	761,580	291	合計	623	774,298	292
	雄							
	去勢	726	885,605	323		758	916,849	324
	計	1,267	832,647	309		1,381	852,541	310

※県南市場は令和8年4月より1日開催
※価格は円(税込み)、体重はkg

子牛価格の推移 (直近5年との比較)



※本年度より視認性向上のため、対象期間を5年間に変更しました。

県内家畜市場における指定肉用子牛取引実績

公益社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	令和8年3月		令和8年4月	
	頭数	平均価格	頭数	平均価格
黒毛和種	1,106頭	821,167円	1,186頭	836,381円
褐毛和種	-	-	-	-
日本短角種	1頭	332,200円	1頭	369,600円
ホルスタイン種 (雌を除く)	-	-	-	-
交雑種・乳	3頭	332,200円	2頭	359,700円

※ 指定肉用子牛とは、肉用子牛生産者補給金制度における、平均売買価格算定の対象となる牛(区分ごとに体重の範囲が定められている)
※ 平均価格は消費税込み